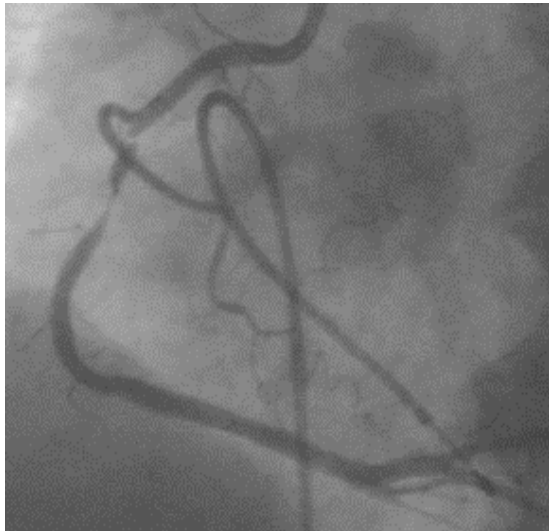




# Direct Stentingに際してScalerによる冠動脈病変長計測が有用であった労作性狭心症の一例

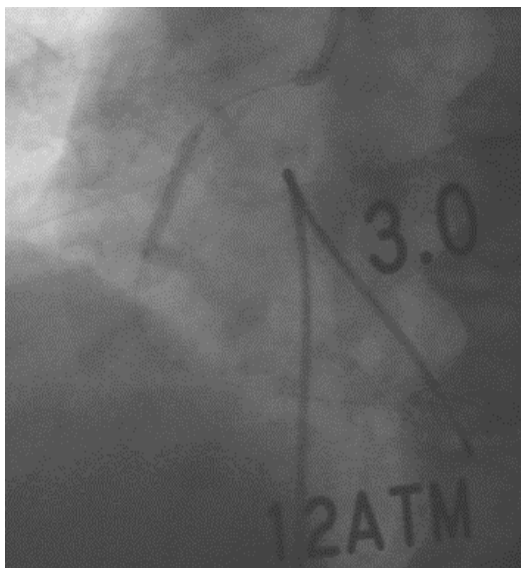
鹿児島県鹿屋市  
県民健康プラザ鹿屋医療センター  
循環器内科部長 末次 哲朗



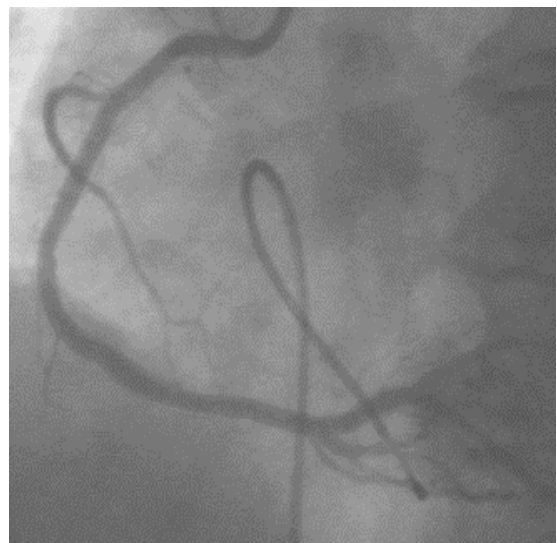
pre PCI



Scalerによる病変長計測



stenting



final

64歳 女性

現症：労作時の前胸部痛を主訴に平成15年3月24日当院初診、心筋シンチグラムにてinfero-posterior wallに、心筋虚血を認めたため、4月22日冠動脈造影検査を行った。RCA# 2ヶ所の90%狭窄を認め、4月24日待機的にPCIを行った。

方法：RCA# 2ヶ所の有意狭窄に対してDirect stentingを行った。7FrGuide catheter JR3.5SHを使用し、wireをbareで病変部crossした。病変部の長さはScalerを用いて計測した結果、病変部は18mmのstentにてfull coverされると判断し、BX velocity 3.0/18mmをdirectに病変部に対して留置した。